

戦争と学校③ 飾りつけに見られる戦争の証

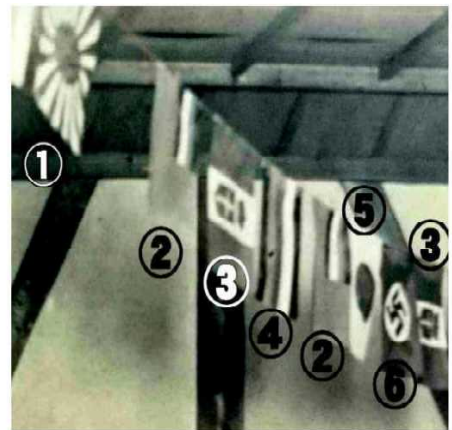
1940年(昭和15年)～1943年頃(昭和18年)の写真です。教室にかざられる旗をよく見れば、三国同盟(日本・ドイツ・イタリア)、満州国、中華民国国旗が見られます。満州国とは、今の中国北東部にあった国で、実質的には日本が治めていました。中華民国は「台湾」とよばれる地域の国です。当時は、日本が色々と支援していました。旭日旗は、日の丸と太陽の光を重ね合わせてデザインされた日本の旗です。日本軍の軍旗としても用いられました。このように当時は学校においても、戦争を盛り上げるような飾りが見られました。



敗戦直後の教師たち

最後の写真は、敗戦まもない頃の本校職員一同です。人数もだいぶ減りました。戦争は、日本各地に大きな傷跡を残しましたが、学校も例外ではありませんでした。しかし、敗戦にも負けず、この後日本はめざましい復興をとげていきます。先生たちも、戦争で荒れて

第2次大戦同盟国



しまった日本を立ち直らせるために、教育に一生懸命励んだことでしょう。

